ともに歩む教会

2026年9月27日（月）

愛する兄弟姉妹の皆さん、

今日は、秋田の教会として私たちが経験した、信徒大会、国際ミサ、そして世界難民移住移動者の日を振り返ります。

教会は、単なる建物でも組織でもありません。教会とは、ともに歩む人々です。

その歩みの中で、私たちは耳を傾け、受け入れ、互いに寄り添うことを学びます。一人ひとりが、それぞれの物語、言葉、文化、人生の経験を持っています。しかし私たちは、愛と希望のうちに、より人間らしいいのちへ向かって、ともに歩むよう招かれています。

信徒大会と国際ミサは、違いが私たちを遠ざける理由ではないことを思い起こさせます。むしろ、その違いを通して、ともに生きることの豊かさを見ることができます。

世界難民移住移動者の日に、私たちは歩み続けている人々のことも思い起こします。移住者、難民、そして尊厳をもって生きる場所を求めているすべての人々です。

ともに歩む教会は、まず「あなたはどこから来たのですか」と尋ねるのではありません。「私たちは、どのようにともに歩むことができるでしょうか」と尋ねます。

キルケゴール、ガブリエル・マルセル、そしてカール・ラーナーの思索にも通じるように、人間は、他者との関わりの中で、自分自身となるように招かれています。それは希望のうちに、そして神の神秘に心を開くことによってです。

だからこそ、教会であるとは、そこにいて、とどまり、ともに歩むことを学ぶことです。

来る。立ち止まる。聴く。流れる。

これが、ともに歩む教会です。